



2月の園だより



令和5年2月1日
目黒区立鷹番保育園園長

1年の中で最も寒い時期になりました。それでも子どもたちは元気いっぱい外遊びを楽しんでいます。先日園庭で4歳児と2歳児がフープを使ってダンスをしていました。2歳児がテラスに行き「ピッ」といってスイッチを押すしぐさをすると保育士がメロディーを口ずさみます。その曲に合わせて運動会で4歳児が披露したダンスを再現しています。10月から随分日は経っていますが完璧なまでに再現されていて驚きました。4歳児が手本となり2歳児を気かけながら踊っているのに対して、2歳児はただ真似をして楽しいだけでなく、同じようにできることの得意げな表情も見て取れます。しばらく踊っていると手本となっていた子とは別の4歳児が、親切心から2歳児のフープと一緒に持ってやり方を教えていました。するとその2歳児は踊るのをやめテラスへと向かっていきました。どうするのか見ていると新たなフープを手にして、教えてくれていた4歳児に手渡し、何事もなかったかのようにまた笑顔で踊りを再開しはじめました。教えてもらうよりも「自分でできる」という思いがそこにあり、でも教えてくれることを拒否するのではなく「一緒にやろうよ」と言葉にこそしていませんが、雰囲気伝わって、教えてあげていた4歳児も笑顔と一緒に踊り始めました。曲が終わるとまた2歳児がテラスへ行き「ピッ」とスイッチを押すしぐさをして完結。その空間がとてもいとおしく感じました。今月はわくわくまつりがあり、より異年齢の関わりがみられます。今年は1,2歳児も参加できるように企画しています。密にならないよう対策しながら楽しい行事となるよう準備しているところです。園庭での自然な関わりや行事での関わりなど増えることで、年上の子にあこがれ、小さい子をいたわる心などを育てていきたいと思えます。

クラス懇談会にはたくさんご参加いただきありがとうございました。短い時間でしたが、保育園での様子やご家庭での様子が共有できましたことをうれしく思います。話したいこと等ありましたらいつでも気軽にお声かけください。

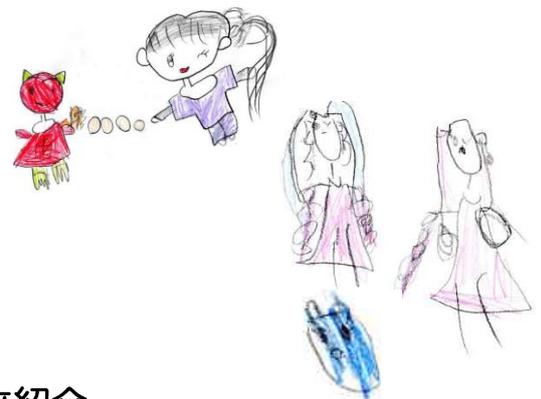
行事予定

節分

わくわくまつり

ポニー教室

避難訓練 身体計測



わくわくまつり お楽しみ献立紹介

今年のわくわくまつりは、5歳児が考えた「妖怪温泉ランド」「キラキラランド」「たかばん水族館」の3グループの中から4歳児がやりたいグループを選び、4,5歳児合同のグループで活動しています。乳児クラスもお客さんとして各グループに遊びに行きます。

頑張る子どもたちのために3日間お楽しみがあり、1日目はおやつの手作りココアパン、2日目はお楽しみ給食、3日目はわくわくまつり終了後にポップコーンを作ってもらいます。

～手作りココアパン～

■作り方

- ① 強力粉と薄力粉とココアを合わせてふるう
- ② ドライイーストはぬるめの湯で溶かす
- ③ ①に②とその他材料を入れて混ぜ合わせ、よくこねる
- ④ 90分ほど一次発酵させる*
- ⑤ ④のガス抜きをしてから形を形成し、二次発酵させる(室温に15分ほど置く)
- ⑥ 180℃のオーブンで10分ほど焼いて出来上がり。

*一次発酵は、保育園では鍋にお湯を張り、その中に生地を入れたボールを入れて行っています。

■材料(子ども1人分)

強力粉	30g
小麦粉	7.5g
砂糖	4.5g
塩	0.4g
油	3g
ドライイースト	0.8g
水	18g
ココア(ピュアココア)	0.8g
粉糖	2.5g



わくわくまつり取り組みの様子 ～幼児クラス～



「なんだかいい感じだね」

妖怪温泉ランド

妖怪温泉ランドチームは『妖怪温泉』という子どもたちが大好きな絵本の世界を作りたいと、アイデアを出し合っています。「地獄風呂は絶対作りたいんだ。他の温泉は、らいおんさんの好きなのでいいよ」と全体のイメージをきりん組が提案してくれ、それを聞いたらいおん組も「雪女風呂も作りたい」「妖怪の電車を走らせたい」等と次々と意見を出しています。「じゃあ、温泉から景色が見えるようにして、そこを電車が通るようにしようか」と意見を取り入れてくれるきりん組。「最初に妖怪と写真を撮れるフォトスポットを作ろう。みんなで妖怪になって、お客さんと写真を撮ってあげるんだ」「いいね」「お土産コーナーは最後ね」「うん。なんだかいい感じだね」と、みんなのアイデアで楽しい温泉になりそうです。

早速「地獄風呂の周りを岩みたいにしたい」と温泉作りに取り掛かると、きりん組がらいおん組とペアになり描き方を教えてくれ、異年齢で楽しく作っています。同じチームのメンバーに親しみを持ち、「明日も絵の具の続きしようね」と約束したりして、次の活動に期待しながら準備をしています。



「これは、わくわくするねえ」

キラキラランド

キラキラランドには、乗り物、食べ物、ブティック、くじ、お土産などがあり、その中で一人ひとりがやりたいことに分かれて日々の活動をしています。

きりん組の子どもたちは、様々なことを準備し、らいおん組の子どもたちに伝える姿がありました。お土産をラッピングするリボンをみつけてきたり、案内ポスター制作を提案したりするとみんなで「それ、いいね」と盛り上がっていました。はじめは、聞いていることが多かったらいおん組の子どもたちも、だんだんとイメージがわき「食べ物は、かき氷がいい」「チョコレート味だから茶色の絵の具が欲しい」などと提案し積極的に活動に参加しています。難しいと思っていたマフラー作りも「結構、簡単だね」と普通の遊びの中でも少しずつ進めながら作ることを楽しんでいる子どもたちでした。キラキラランドという名前の通り、宝石をイメージ

した指輪やきらびやかなドレスなど、キラキラしたものがたくさんあり、子どもたち自身も制作をしていく度に「わあー」「きれいだね」「これは、わくわくするねえ」などと目を輝かせています。同じイメージをもって集まってきた友達と一緒にだからこそ、共感したり協力しあったりしながら活動を楽しんでいるのだと思います。



「今夢中だから」

たかばん水族館

たかばん水族館チームは、みんなが楽しめる水族館にしようということで大きな水槽とゲームコーナーを作ります。大きな水槽には、折り紙で作った魚や画用紙に描いた魚を作って貼っています。らいおん組にとっては折り紙で好きなものを折ることはとても魅力的なようで、目を輝かせきりん組に教わっている姿があり、出来上がるとみんなに見せてくれます。周りの子も「可愛いねー。ほらこっちも見て」と見せ合いながら楽しんで折っています。また、クラゲも違う素材を使って作りました。水槽がどんどん出来上がると、ますます楽しく感じるようで作っている最中「楽しいなあ」「今夢中だからさ」などの声も聞かれ熱中している姿も見られます。一人ひとりやりたいことを見つけて作ることを楽しんでいます。

ゲームコーナーでは、自分たちが体験したことがある太鼓のリズムゲームやクレーンゲームを作りたい、イルカのガチャガチャを作りたいという声が出て、様々な素材を集めどうしたら自分たちが作りたいものが作れるのか相談しながら進めました。また、海の世界観をどうやって取り入れるかということも考えながらデザインしていました。今現在作成中ですが、太鼓をタコの形に、ばちをタコの足にして細かく再現しています。みんなどんな魚がいるか図鑑で探して作っている姿もありました。ほかにも大きなジンベイザメを作るなど楽しいことを考えています。みんなでやりたいことを実現させること、水族館を通じて海の生き物の関心を深めることを大切に取組んでいる子どもたちです。

